本海新聞　（第３種郵便物認可）

アグリビジネス参入

建設資材卸・石田コーポレーション（米子市米原８丁目）

日南ブランド確立へ

建設資材卸などの「石田コーポレーション」（米子市米原８丁目）が別会社の「日南物産」（日南町三栄、石田康雄社長）を立ち上げ、アグリビジネスに本格参入した。日南町産野菜の栽培から集荷、加工、販売までを手掛け、６次産業化による日南ブランドの確立と普及を目指す。

創業者の石田利満氏が日南町出身の縁もあり、過疎化が進む地域の活性化に一役買おうとことし６月、日南物産を設立した。

核商品の第１弾として、着目したのがトマト。夏涼しく、日中と夜の寒暖差がある気候が栽培に適しているとされ、既に町の特産品となっている。

差別化を図るために、県西部ではまだ栽培事例が少ないという新品種「りんか４０９」を採用。減農薬有機栽培で完熟寸前まで枝に付けたままで育てる手法で、濃厚な味を引き出し「日南シルクトマト」と名付けた。

昨年度は試験的に栽培したトマトをドレッシングに加工。６００個を数カ月で売り切り、事業化に手応えを得た。本年度は地元生産者とも連携して、３倍の収量を目指している。

またトマト以外にも原木シイタケ、コメなどの取り扱いを始めた。

同社の趣旨に賛同し、栽培法を守ってもらえる生産者からは小ロット、規格外でも極力全量買い取る方針。生産者の生活基盤を強化することで、Ｕターン促進につなげたい考えだ。

現在は岡山県倉敷方面に出荷するほか、７月からは皆生温泉のホテル前で、不定期に観光客向けの朝市を開くなど地道に販路を開拓中。最終的な目標は首都圏で「日南ブランド」を広めることだが、輸送コストなど課題は山積している。

絹谷健一営業課長は「人口減少に歯止めを掛けるために、もうかる農業の仕組みをつくり定住人口の増加につなげたい。農協とは別の選択肢として活用してもらえるようになれば」と話している。

皆生温泉のホテルの敷地で朝市を開き「日南シルクトマト」などを販売する社員ら＝米子市皆生温泉４丁目